

避難の判断(タイミング)

洪水が発生しそうなときは、市役所や消防などから避難の呼びかけを行います。
しかし、避難するタイミングをつかんで**実際に行動するのは、あくまであなた自身です。**
“あぶない”と感じたら、自分からすすんで避難することが大切です。

■雨の降り方の程度



やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間に 10mm以上～ 20mm未満	1時間に 20mm以上～ 30mm未満	1時間に 30mm以上～ 50mm未満	1時間に 50mm以上～ 80mm未満	1時間に 80mm以上～
ザーザーと降ります。 地面からはね返りで足元がぬれます。 この程度の雨でも長く続く時は注意が必要です。	どしゃ降りです。 傘をさしていてもぬれます。 側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まります。	バケツをひっくり返したように降ります。 道路が川のようになります。 山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要です。	滝のように降ります。 水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなります。 土石流が起こりやすく多くの災害が発生します。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。 雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。

■気象予報の種類と発表基準

宇都宮地方気象台が発表する**下野市の警報・注意報**には次のようなものがあり、それぞれ以下の基準で発表されます。

種類	発表基準	
	雨量指数	指定河川洪水予報による基準
警報	大雨 (浸水害)表面雨量指数基準17 (土砂災害)土壌雨量指数基準150	—
	洪水 流域雨量指数基準:新川流域=12.4 複合基準*1:姿川流域=(8,16)	鬼怒川[石井(右)]、田川[東橋・明治橋]、思川[保橋・観晃橋]、姿川[淀橋・姿川橋]、黒川[府中橋・東雲橋]
注意報	大雨 (浸水害)表面雨量指数基準10 (土砂災害)土壌雨量指数基準90	—
	洪水 流域雨量指数基準:新川流域=9.9 複合基準*1:姿川流域=(5,14.4)	鬼怒川[石井(右)]、田川[東橋・明治橋]、姿川[淀橋・姿川橋]

*1(表面雨量指数、土壌雨量指数)の組み合わせによる基準値を表しています。

※土壌雨量指数は、降雨による土砂災害リスクの高まりを示す指標で、土壌中に貯まっている雨水の量を示す指数。

※流域雨量指数は、河川の上流域に降った雨による、下流の対象地点の洪水リスクの高まりを示す指標で、降った雨水が地表面や地中を通過して時間をかけて河川に流れ出し、さらに河川に沿って流れ下る量を示す指数。

※表面雨量指数は、短時間強雨による浸水害リスクの高まりを示す指標で、降った雨が地表面にたまっている量を示す指数。